愛知県：絶滅危惧ⅠA類（国：絶滅危惧Ⅱ類※）
AICHI：CR　（JAPAN：VU）
※ナガバノイシモチソウに含めて

シロバナナガバノイシモチソウ　*Drosera makinoi* Masam.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 16。減少傾向の著しい食虫植物。本地域を特徴づける湧水湿地性植物の一つであるが、減少傾向が著しい。

【形　態】

食虫性の 1 年生草本。ナガバノイシモチソウに比べやや草丈が高く、花はやや小さくて白色である。単なる白花品種 form. *albiflora* Makino と思われていたが、近年の研究で、遺伝的にかなり分化していることが判明した。

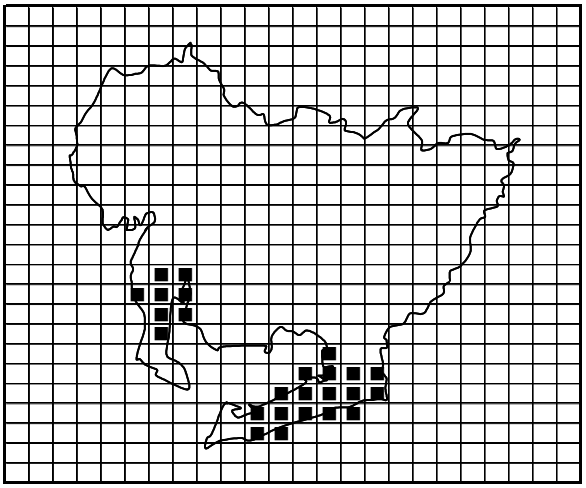
【分布の概要】

【県内の分布】
尾：42c 武豊（芹沢 80852, 2006-8-29）。16 豊橋南部（芹沢 56671, 1990-8-28）と 17 田原東部（芹沢 53620, 1989-9-27）にも生育していたが、これらは人為的に播種されたものである可能性が高く、また田原東部では現在は消滅している。18 田原西部（伊良湖岬, 恒川敏雄 s.n., 1957-8-20, TMNH）、33 安城（榎前町, 岡田善敏 s.n., 1924-8-21）、40a 大府（井波一雄 s.n., 1951-9-23, TNS）で採集された標本もある。

【国内の分布】
本州（関東地方、東海地方）、九州。

【世界の分布】
日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、半裸地状の場所に生育する。「ため池の岸にある」という話を聞いたこともあるが、教えてもらった場所では確認できなかった。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地		○		
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

渥美半島の自生地はいずれも危機的な状態である。生育している湿地の破壊（直接的な破壊だけでなく、水源部の破壊を含む）と遷移の進行が、減少・絶滅の主要因である。武豊の自生地（壱町田湿地）は県の天然記念物／自然環境保全地域として保全が図られているが、水源となる台地が宅地化されたため湧水が枯渇し、給水が必要な状態に追い込まれている。

【保全上の留意点】

埋土種子集団を作る植物なので、表土を攪乱すれば埋土種子が発芽し、遺伝的に多様な集団が復元すると思われる。しかし壱町田湿地の場合は、そのような行為は一方で同所に生育する他の植物（ヒメミミカキグサなど）に深刻な影響を与える可能性があり、慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。

【関連文献】

保草本Ⅱp.167, 平草本Ⅱp.121, 平新版 4 p.107, SOS 新版 p.106,108（ナガバノイシモチソウとして）.